

【研究報告（2019年度）】

チーム② 学童期・思春期の学校適応支援・活力ある人間形成の研究チーム（②-2） 学校における新体力テストの効果的な活用と体育・スポーツ資質の 向上へ向けての取り組み

乾真寛^{1,*}、築山泰典¹⁾、田場昭一郎¹⁾、泉原嘉郎¹⁾、安方惇¹⁾、

1) 福岡大学スポーツ科学部、*) 責任者

要 旨

今年度もサッカー、水泳、スノーケリングのサポートを実施した。サッカーは、「ドリブル」、水泳は「4泳法」、スノーケリングは「浮遊技術・呼吸法」をテーマに実施した。コーディネーショントレーニングは教員向けに体育授業における導入・応用方法をテーマに実施した（計5回）。体力測定サポートでは、生まれ月を考慮した体力テストの新評価基準について検討し、10～3月生まれの児童は4～9月生まれの児童より体力レベルが低いことが確認されたため、10～3月生まれの児童の新評価基準を作成した。次年度では、新評価基準の妥当性の検定及び体力評価結果との連続性・一体感のある内容へ改良、普及に務める。

1. 活動状況

【キッズサッカー】

2018年度に続き、今年度も福岡市内横手小学校および那珂小学校において、福岡大学サッカー部の学生スタッフとともに、すべての児童を対象に、キッズサッカーの授業を実施した（2020年2月）。なかでも、今年度は「ドリブル」をテーマに、運動やサッカーが苦手な子どもでも楽しんで参加でき、仲間と協力して勝利する喜びを分かち合える内容を多数実践した。

また、これまでと同様に教員向けの実技研修会も実施することが出来、小学校の体育授業にサッカーを導入する際のヒントやコツなどの伝達を行った。



【コーディネーショントレーニング】

コーディネーショントレーニングに関しては、2018年度に引き続き、現場の教員向けの研修会や小学校の体育授業における効果検証等を継続実施中である。

平成31年度においては、次の2点に重点を絞り、研究・実践活動を行った。

(1) 教員向けの研修会

2019年度に福岡市教育委員会より発刊したコーディネーショントレーニングの書籍、及びDVDを用いた体育授業における導入・応用方法をテーマに、以下の研修会を実施した。

- ・2019年11月5日：北九州市小倉南区における保育士を対象とした研修会（チーム1：宮城由美子教授主催）を実施。
- ・2019年4月3日、8月27日：福岡県大野城市大野北小学校の教員向け研修会を実施。
- ・2019年8月5日：福岡市教育委員会主催・小学校教員向け研修会を実施。
- ・2020年2月10日：福岡市横手小学校の教員

向け研修会を実施。

(2) 研究調査

「コーディネーショントレーニングの効果検証」

- ・2019年4月～6月：介入研究（長期的効果の検証/福岡県大野城市大野北小学校）
- ・2019年11月～12月：介入研究（短期的効果の検証/福岡県大野城市大野北小学校）
- ・2020年1月～2月：介入研究（ストレス軽減効果の検証/福岡県大野城市大野北小学校）

【水泳授業サポート】

2019年6月13日から6月19日までの期間、小学校のプール開きに合わせて、那珂小学校の水泳授業を対象に、本学のスポーツ科学部生が小学校1年生から6年生までの児童の授業サポートを実施した。主な内容としては、1週目に競泳4種目の模範泳法、児童の泳力判定テスト補助および技術指導を行い、2週目の授業では“蹴伸び”“伏し浮き”“ダルマ浮き”などの浮遊技術を指導した。プール開き第1週のため水温は低かったが、寒さに屈する事なく活発的に楽しく授業をサポートできた。

【スノーケリング教室】

2019年6月26日と2019年7月18日、本学のスポーツ科学部生が福岡県スノーケリング協会のスタッフと提携して、横手小学校と東住吉小学校の児童を対象に、90分の2クラスに分けてスノーケリング教室を実施した。スノーケリング教室を実施する前には全く泳げなかった児童が、軽器材（マスク、スノーケル、フィン）を活用することで、浮遊技術と呼吸が保たれ、水に対する抵抗感や不快感も緩和され、自発的に25m以上を泳げるようになった。



【体力測定サポート】

今年度は福岡市内にある8校の小学生児童2425名（男児1248名、女児1177名）の体力測定をサポートを実施した。今年度は昨年度に続き生まれ月と体力の関係について研究を進めてきた。新しい評価基準については、平均と標準偏差（SD）を用いて平均から+1.5SD、+0.5SD、-0.5SD、-1.5SDの値を基準として作成する5段階評価法を用いた。

「10～3月」生まれの児童は「4～9月」生まれの児童に比べ、AB評価の割合が少なく、DEが多い。そこで「10～3月」生まれに対して新しい評価基準の作成を試みたところ、現行よりも新評価でAB評価は増加、DE評価は減少した。新評価により生まれ月による評価の差を小さくできることが示唆された。今後、生まれ月の新評価法についての妥当性の検討及び各生まれ月や3ヶ月単位の評価方法などの検討を進める。

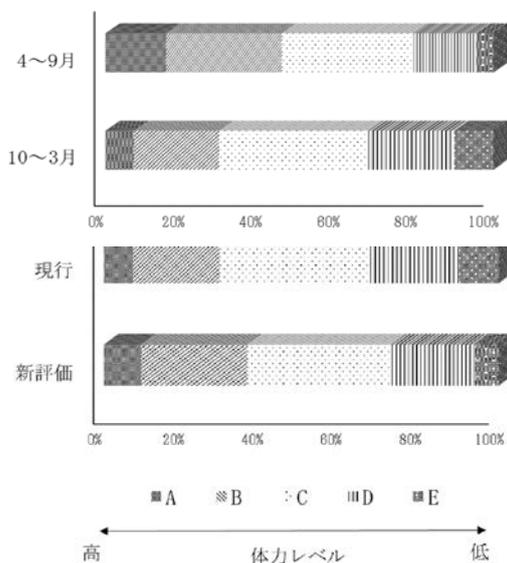


図 生まれ月別の体力評価の分布及び新評価

2. 今後の展望

次年度は2018度につきサポート活動および研究を進める。体力測定サポートに関しては、生まれ月を考慮した新体力評価作成の検討をさらに深めるとともに出生体重の考慮も視野に入れ検討する。また、体力評価結果との連続性・一体感のある内容へ改良、普及に務める。